

元気のもとは!?(2歳児のおさんぽにて)



散歩中に摘んだタンポポが、だいじに握っていたのでしおれてしまいました。

Aちゃん「せんせー、わたしのタンポポくたびっちはー」

Bくん「ジュース飲むと治るかもよ! ぼくもりんごジュース飲むと元気になるも。」

Cくん「ぼくも元気もりもりでるよ。ぼくはぶどうジュースいいなー!」

保育士「そういえば、先生はビール飲むと元気出てくるもんなー」

子ども「えーっ!? おとうさんみたい!」

白鷹町認知症高齢者見守りネットワーク

見守り 支え合い

お年寄りが地域で安心・安全に暮らせるよう応援します

認知症・介護に関するご相談は
地域包括支援センター Tel.86-0112

高齢者のかたが安心して生活できるよう、見守り・声かけを行うネットワーク構築をめざして、事業を推進しています。



これは、「見守り支え合いステッカー」といいます。高齢者やその家族が認知症のことで困ったときに相談にのってくれたり、力になってくれたりするお店や家庭などに掲示してあります。高齢者が物忘れや徘徊でお困りのとき、見守りをしたり家族に連絡したりなどの協力ができます。

こんなとき、ご相談ください

○最近、お金の支払いが上手くできなくなったけど、買物に行くのを楽しみにしているから止めさせたくない。どうしたらよいか。

ステッカーを掲示しているある商店に相談したら：

「そのかたが買物に來られたら、会計のときに急かさずゆっくりお金を探してもらいます。探せないときはお金を探すお手伝いもしますので、いつでも買物にきてくださいね。」

支援をお願いして、買物を続けていけそうです。

○散歩が好きで毎日楽しんでいますが、ときどき道がわからなくなるみたいで、家に帰れなくなったりしないか心配です。

ステッカーを掲示している近所の家に相談したら・・・
「そのかたが困っているところを見かけたら、お話ししてお家の方向を教えます。帰宅しないようだったら、お家に連絡しましょうか。」

見守りを依頼して、外出のときも安心できるようになりました。



認知症のかたが安心して暮らせるように、地域で「見守り支え合い」をします。知られたくない秘密は守ります、認知症に関わる悩みや困りごとは「見守り支え合いステッカー」掲示協力機関にご相談ください。

見守り支え合いステッカーの掲示協力機関

区長、町内長、民生委員・児童委員、医療機関、介護事業所、銀行、郵便局、商店、美容院、美容院など、約400か所

【認知症ケアのポイント】

認知症になると、家族や周囲の支援がなければできない

ことが増えていきますが、人前で「わからない」「できない」と言うのは勇気のいることで、支援の手がほしくても周囲に迷惑をかけたくない気持ちなどから、本人家族ともなかなか素直に「助けてほしい、支えてほしい」と言えません。

支えてほしい気持ちを推し量り、本人が納得できる範囲のサポート、例えば話相手になるなど、本人の気持ちの負担にならない支援からスタートしましょう。

認知症の初期で、周囲とのコミュニケーションも十分にとれるうちは、地域のかたにひと声かけてもらうように頼みましょう。

地域のかたに認知症であることを伝え、困ったことがあるれば手伝ってもらえるように、いつでも相談できる頼れる人を見つけておきましょう。

■相談・問い合わせ

白鷹町認知症高齢者見守りネットワーク協議会事務局

地域包括支援センター

☎ 86-0112

お気軽にご相談ください。